

平成16年10月22日
国土交通省中部地方整備局
独立行政法人水資源機構中部支社

お 知 ら せ

1. 件 名

台風23号による出水における岩屋ダムの洪水調節効果について

2. 概 要

平成16年10月19日から21日にかけて、台風23号の通過により岐阜県は大雨に見舞われました。

木曾川水系馬瀬川の岩屋ダム流域では、10月19日早朝から21日明け方までに、累計約221mm（岩屋ダム流域平均雨量）の降雨を観測しました。特に20日20時の時間最大雨量は、約32mm、20日17時から20時までの3時間雨量は約77mmを記録しました。

この降雨により、岩屋ダムでは、20日17時50分に洪水流量（300m³/s）に達し、その後、流入量は、20日21時50分には最大約1,449m³/sとなりました。

岩屋ダムの貯水容量内への洪水貯留により、下流基準地点（東沓部地点^{ひがしくつべ}）において、約2.32mの水位低減があったものと推定され、下流河川の洪水を軽減しました。

3. 雨 量

流域平均雨量 約221mm

（降り初めから累計値：19日7時から21日8時まで）

ダム地点雨量 約233mm

（降り初めから累計値：19日7時から21日1時まで）

4 . 岩屋ダム洪水調節量

ダム最大流入量	20日21時50分	約1,449m ³ /s
ダム最大放流量		約300m ³ /s
洪水調節量		約1,149m ³ /s
(参考:馬瀬川への馬瀬川第2ダム最大放流量)		約373m ³ /s)

5 . 下流基準地点での効果推定値

ダムが貯水容量内に洪水を貯留することによって、東沓部地点での実績最高水位は、6.05mでした。

ダムが貯留を行わなかった場合の東沓部地点での河川水位は約8.37mと推定されます。(この値は、東沓部地点の実績流量に、岩屋ダム地点の洪水調節量を加算して、算定した河川水位の推定値です。)

その結果、東沓部地点で約2.32mの水位低減効果があったものと推定されました。

東沓部地点

岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
住所：岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津1458

6 . 配布先

岐阜県政記者クラブ

7 . 問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 岩屋ダム管理所
所長代理(技) 田原 秀光
電話 0576-35-2339

国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所
流水調整課長 大塚 康司
電話 058-251-3234

岩屋ダムの洪水調節効果(東沓部地点)

左岸

右岸

岩屋ダムが貯留を行わなかった
場合の想定水位 約8.37m

ダムによる水位低減効果
約2.32m

実績最高水位 約6.05m

東沓部地点 岩屋ダム下流約9.3km、飛騨川本川合流前約7.5kmの地点
(住所 岐阜県下呂市金山町東沓部字前田会津 1458)

